

ようこそ 渡良瀬遊水池へ

栃木・群馬・埼玉・茨城4県にまたがる面積3,300ヘクタールの遊水池には、本州以南で最大のヨシ原が広がります。足尾銅山の鉱毒によって滅亡させられた谷中村という歴史を抱えた土地は、たくましく再生し、人里の営みがあったがゆえの特色のある自然、生物多様性の高い自然となっています。

どうぞ、生命の鼓動に包まれる遊水池の広い空とヨシ原を堪能してください。



生き物たちを育む豊かな自然



チョウジソウ



ハナムグラ



ワタラセハンミョウモドキや エサキアメンボ
ムモンチャイロテントウなど
たくさんの湿地性昆虫を
見つけることのできるときめきの場所です。

700種に及ぶ 植物

ヨシ焼きのあとには、春の日差しを受けて
絶滅危惧種のトネハナヤスリやハナムグラがびっしり生えます。
ノウルシの黄色い群落。可憐なニホンサクラソウ。
2005年にワタラセツリフネソウという新種も発見されました。
59種の絶滅危惧種をふくむ植物たちの
貴重なそして多くの可能性を秘めた生息地です。

昆虫 は約1700種



アカガネオサムシ



ノウルシ



足尾の山々とサギ群 / 堀内洋助



コヨシキリ



ハイイロチュウビ

野鳥 は230種

ワシタカ・ハヤブサ・フクロウなど
食物連鎖の頂点にある猛禽類25種の確認は、日本屈指です。
クイナやヨシゴイたちの繁殖地であり、
ツバメ類やシギ・チドリの渡りの中継地、
鳥たちの命をつなぐ楽園です。

「ラムサール条約」に登録して、生き物たちと共存していこう！



チュウビ

「ラムサール条約」は、湿地を維持しつつ賢明に利用しようという理念で水鳥や湿地の様々な生物を守る国際条約です。

湿地=水のあるところは、生命をつなぐ場所、

多様な生物の存在こそが、その一部である私たち人間の存在を支えているのです。

「ラムサール条約」の日本登録地は現在 33 ヲ所。

No1 の登録地「鉏路湿原」には、湿地を保全しつつ楽しむ多くの人々が訪れています。

「琵琶湖」では、ヨシを利用したさまざまな事業が沿岸地域に活気をもたらしています。

渡良瀬遊水池のたくいまれな存在を世界にアピールし、

その自然を守りつつ有効に利用する活動を考えるために、「ラムサール条約」に登録しましょう！！

豊かな自然と歴史を学び活用する エコミュージアムを！

40 年ほど前までの渡良瀬遊水池には、実に豊かな自然がありました。

見渡すかぎりのヨシ原に大小の沼が点在し、

湿地特有の動物・植物が息づいていました。

ヨシを利用した産業や漁業が生活を支えていました。

広々としたヨシ原と水辺に共存する生物たち、これが遊水池の原風景です。

しかし、さまざまな開発が行われヨシ原の風景を変えてきました。

自然の営みを破壊するような開発を阻止し、遊水池を

「豊かな自然と歴史の野外博物館 = エコミュージアム」

とすることを提案します。

このプランは、遊水池の存在意義をより高め

周辺市町の町おこしをはかることも目指しています。



エコミュージアム・イメージ図

100年前、ここには、 谷中村があった。*



田中正造

明治 10 年代以来、

足尾銅山から流れ出す鉱毒は、

渡良瀬川沿岸の農業漁業に

甚大な被害を与えてきました。

明治政府は、時代を揺るがす

公害闘争 = 足尾鉱毒事件に対し、渡良瀬川最下流の谷中村を遊水池にすることで鎮静化を謀りました。

闘争の先頭に立つ田中正造とともに戦った谷中村民は、

父祖伝来の土地を追われ、明治 40 年村は廃村となりました。

しかし、旧谷中村村民のたたかいは、その後も続きました。

谷中湖のハート型のくびれは、「谷中村の遺跡を守る会」が神社跡・役場跡などを谷中湖造成から守った所です。



渡良瀬遊水池を守る利根川流域住民協議会

事務局 〒328-0053 栃木市片柳町4-16-1 猿山弘子 TEL : 0282-23-1078 <http://www.watarase-kyougikai.org>